

2023 年度 9 月卒業式式辞

2023 年 9 月 16 日

田中愛治

卒業生の皆さん、ご家族・ご親族の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業される皆さんはもちろん、これまで卒業生を支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、早稲田大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べたいと思います。

今年の 9 月に卒業される皆さんは、特別な思いを持って、卒業されることと思います。今年の 3 月までの過去 3 年間、新型コロナウイルス感染症の拡大というパンデミックに、世界中・日本中が振り回されました。早稲田大学も例外ではなく、4 年生、修士 2 年生、博士後期課程の修了生は、在学中の 2 年から 3 年間にキャンパスに自由に通うこともできず辛い思いで過ごされたことと思います。昨年からは徐々に対面授業を増やし、キャンパスにも活気が出てきましたので、皆さんも最後の 1 年間はある程度は学生生活を楽しめたのではないのでしょうか。とはいえ、それ以前にはすべての授業がオンラインで行なわれた時期も長くあり、ご苦労をおかけしました。それらの措置は、感染拡大を確実に防ぐためには、仕方がなかったとはいえ、皆様には申し訳なかったと思います。

その反面、早稲田大学の判断は他の大学に先駆けて感染防止策を打ち出したことで、他大学からは高い評価をいただきました。その理由は、私たち早稲田大学は、新型コロナウイルスの感染拡大を当初からパンデミックとして捉え、危機管理の鉄則を実行しました。それは、危機状況では Minimizing Maximum Regret (Mini-Max Regret) という最悪の状況を最小限に抑えるという考え方です。私たちには、環境が非常に良い時には Maximizing Maximum Merit という利得の最大化を目指しますが、危機状況ではその正反対の Minimizing Maximum Regret という考え方が効果的であるということを、身をもって実証しました。こういう危機管理の哲学を実践してみて、成功を収めたということは、皆さんも私たちも、今後の危機管理に対処すべき貴重な経験を積めたと思います。

このように、コロナ・パンデミックは数々の試練を私たちに与えましたが、皆さん卒業生も私たち教職員も、これらをネガティブなものとしてばかり捉えずに、これらから得た教訓を生かして前向きに進んでいただきたいと思います。

コロナ・パンデミック下での学生生活を通して、オンラインで学ぶことや、オンラインで他の方とミーティングを行うことなどが効果的な場合もあることを学んだことと思います。学修の仕方も、就職活動も大きく変化し、皆さんは今後の人生に活用していくことでしょう。同時に、私たちはオンラインでのコミュニケーションを強いられる中で、対面でのコミュニケーションがいかに貴重で大切なものかも再認識しました。このように我々がコロナ・パンデミックから学んだことも数多くあると思います。ぜひとも、それらの経験を今後の人生に生かしてください。

私は、約4年前、2018年11月に総長に就任して以来、「たくましい知性」と「しなやかな感性」を育むことを、早稲田の学生が身に着けるべき理念として、提唱してきました。

「たくましい知性」とは、どういう知性でしょうか。今日、人類が直面している問題の多くには、正解がありません。たとえば、コロナ・パンデミックへの対策には、これが正解、と証明されているものはありません。同様に、地球の温暖化への対策も正解のない問題です。あるいは核兵器を持つ強大国が小さな隣国に武力侵略した場合も、これを止める解決策には正解がありません。数えれば、きりが無いほど正解のない問題は、たくさん存在します。皆さんが社会に出て直面する問題の多くは、コロナ・パンデミックほど大きな問題ではなくとも、どの問題の正解も教科書や専門書には記されてはいないのです。そのような未知の問題に果敢に挑戦して、自分の頭で自分なりの解決策を考え出す力、これを私は「たくましい知性」と呼んでいます。

早稲田大学で皆さんは、「たくましい知性」を育み「自分の頭で考える」ことを身につけたと思います。同時に、「自分の頭で考える」ためには、やはり学問が重要なのです。学問とは、文字が発明されて以来、5千年にわたる人類の経験のエッセンスが体系的にまとめられたものです。もちろん、過去に人類が経験したことのない未知の問題の解決方法は、学問には記されていません。しかし、学問をひもとけば、過去に人類がどのように、未知の問題に挑戦したのかを、学ぶことができます。したがって、皆さんが未知の問題に挑戦する際には、早稲田で学んだ学問が座標軸となり、今後の人生の道標となっていくはずです。

もう一つ大切なことは、「しなやかな感性」を育むことです。早稲田大学の創立者である大隈重信は、建学の精神として、「学問の独立」「学問の活用」と共に、「模範国民の造就」の大切さを説いています。すなわち、「一身、一家、一国のためのみならず、進んで世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」と、利他の精神

の大切さを強調しているのです。この心の広い寛容の精神により、異なる国籍・エスニシティ・言語・宗教・文化・信条・身体条件・性別・性的指向性を持つ人々に対して、敬意をもって接することができます。そうした利他の精神を身につけることで、「しなやかな感性」は涵養されていきます。特にコロナ・パンデミックにおいては、国や民族の違い、あるいは経済的な格差により、より弱い立場の人々がより一層苦しむことになったと思います。そのことを肌で感じる経験をした皆さんは、この時代を生きただからこそ、より一層「しなやかな感性」を育むことができたと思います。

皆さんは、早稲田で身につけた「自分の頭で考える」力に自信を持って、社会に出て活躍してください。あるいは、さらなる上のレベルの学問を追究してってください。私たちは皆さんの今後の活躍を応援しています。

最後に、これから早稲田を巣立って行く皆さんに、私から特にお伝えしたい言葉があります。「皆さんはこれからの人生で、やり甲斐がある、興味深いと思うことを是非とも追及してください」。現時点で流行しているとか、数年後にはこれが流行（はや）るだろうとかの理由で決めるのではなく、ご自分で「やり甲斐がある」と思うことに打ち込んでください。いくら流行に乗っていても、ご自分に興味のないことや、やりたくないことでしたら、皆さんの力は、90%か80%しか発揮されません。流行に乗っていなくても、やり甲斐を感じる、関心の高いことなら120%くらいの力を発揮できます。どの分野であろうと、120%の力で仕事する者は、80%で仕事する者に優ります。

この言葉は、毎年卒業式の日、私のゼミを卒業する学生に言ってきたものです。今、同じ言葉をすべての早稲田の卒業生に贈りたいと思います。

皆さんは、是非とも早稲田で学んだことに自信を持ち、人生を切り開いていてください。卒業後も、時々は母校に帰ってきてください。その時には、今よりも輝いている早稲田で、今よりも輝いている皆さんとお会いしましょう。

To those graduating students who are still learning Japanese, I want to congratulate you briefly in English.

You should be proud of what you have learned at Waseda, as well as trust in your intelligence and ability. With your education, intelligence and ability, may you contribute to human kind as you make your way through the world.

Congratulations on your graduation!

卒業生諸君、ご卒業、本当におめでとう！